



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA-RYOHOKU

# 広島陵北ロータリークラブ

## - The Weekly Report -

～クラブのテーマ～

こころゆたかなロータリアン

～本年度会長方針～

みんなで作ろう ロータリー

ロータリーを  
実践し



みんなに  
豊かな人生を

2013-2014 R.I.会長メッセージ

第1077回例会 2013年7月3日 No.1047号

### ■ 会長時間

(※下記の「新年度会長卓話」をご覧ください)

#### 今回の例会(7月10日)

**決算報告・事業計画・予算説明**

#### 次回の例会(7月17日)

**就任挨拶**

**副会長・正副幹事・理事・役員**

#### 出席報告

(例会運営委員会)

7月3日(水)出席者

会員総数	47名
出席会員	39名
欠席会員	8名
ご来賓	0名
ご来客	3名
ゲスト	1名

#### 来客者紹介

(親睦家族委員会)

7月3日(水)出席者

東城RC	1名
広島中央RC	2名

### 入 会 式

新入会員中村政英会員(推薦者:井林会員、今枝会員)の入会式を行いました。入会認証書、ロータリーバッジ、四つのテスト等を森川会長より授与しました。



### 幹事報告(鈴木幹事)

#### ■例会変更

- ・広島安芸RC「休会」7月16日(火)
- ・広島西RC「夜間例会並びに会員懇親会」  
【とき】7月18日(木) 18:00～【※同日変更】  
【ところ】うを久
- ・広島安佐RC「夜間例会」  
【とき】7月18日(木) 18:30～【※同日変更】  
【ところ】風車

#### ■お知らせ

- ・次週の例会は決算報告・予算説明となりますので、ご出席下さいますようお願いいたします。

#### ■BOX配布物

- ・会員証を配布しておりますので、昨年のは破棄してください。
- ・カバナー月信最終号と7月号、ロータリーの友7月号を配布しておりますので、お持ち帰りください。

### SMILE BOX

.....: SMILE BOX

#### 森川和彦 会員、古谷幸一 会員、鈴木大次郎 会員、森中祥二 会員、山本新太郎 会員

本年度第1回目の例会を迎えました。1年間よろしくお願いたします。

#### 下田敬三 会員

森川年度のスタート心からお喜び申し上げます。「みんなで作ろう ロータリー」頑張りましょう。

#### 愛谷俊治 会員、小川嘉彦 会員

森川年度のスタート楽しい運営を期待しています。

#### 森川和彦 会員、古谷幸一 会員、鈴木大次郎 会員、森中祥二 会員、山本新太郎 会員

中村政英様ご入会おめでとうございませう。陵北ロータリークラブ会員一同喜んでおります。ロータリーの仲間として楽しい日々を送りませう。

#### 井林孝二 会員、今枝仁 会員

さきほど新入会員中村政英さんの研修が無事終わりました。今日から陵北のメンバーになります。皆様どうぞよろしくお願いたします。

#### 川中敬三 会員

7月1日広島ホームテレビのJステーション記念アルバムに取り上げられました。3歳位の写真から幼少期の写真色々出て少し恥ずかしい気持ちです。今度はRCCの元就に出るでせう。

#### S. A. A

森川丸の船出を祈念して全員出宝をお願いします。

当日計	51,000円	累計	51,000円
-----	---------	----	---------

【例会】毎週水曜日(12:30～13:30) / リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78) / 082-502-1121

【会長】森川 和彦 【事務所】広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F 【TEL】082-221-4894

【幹事】鈴木 大次郎 【ホームページ】http://www.ryohoku-rc.jp/ 【FAX】082-221-4870

## 新年度会長卓話(1/2)

## みんなでやろう ローターリー

会長 森川 和彦

2013-14年度の国際ロータリーのテーマは、「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」です。英文では、「ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES」ですから、少しニュアンスが違う気がします。engageには、「引く」とか「雇う」とか「従事させる」とかという意味がありますが、私には、ENGAGE ROTARY という使い方からみて、「交戦状態に入る」という意味が一番近いように思われます。物騒に思われるかもしれませんが、その趣旨は、ロータリーと積極的にかかわり、そのことによって人生を変えようということなのではないでしょうか。こう考えると、日本語訳のイメージもつかめるような気がします。



そこで、2013-14年度のテーマは、「みんなでやろう ローターリー」とさせていただきます。執行部や理事、委員長のみなさんだけでなく、会員全員でロータリーを实践しようということです。

そして、2013-14年度の实践すべきテーマとして、職業奉仕と社会奉仕に重点をおきたいと思います。特に職業奉仕については、沖田ガバナーが大変詳細に分析され、道程を示してくださいました。ロータリーが、他の奉仕団体と根本的に異なっているのは職業奉仕だと言われながら、その意味、实践方法については今一つはつきりしていなかったように思います。2013-14年度は、これまでの職業奉仕活動の成果を踏まえながら、より探化させて会員全員で实践したいと考えています。

その第1は、四つのテストの理解の深化です。私は常々四つのテストに表現される倫理性を見て、これでどうやって倒産しかけた企業を再生させたのか不思議で仕方ありませんでした。昨日、私は、今日卓話でお話する内容を考えておりましたが、行き詰まったので情報を求めてネットサーフィンをしておりました。すると、2680地区の田中毅パストガバナーの文章に出会いました。田中パストガバナーは、ロータリーの源流というホームページでロータリー情報を提供されていて、そこには「He profits most who serves bestの推移」という文章と「四つのテスト 新しい解釈」という文書が発表されていました。いまごろ気がついたのは、お恥ずかしい限りですが、ここには私が探していた情報がありました。He profits most who serves bestについては、また機会を設けさせていただくとして、「四つのテスト 新しい解釈」についてご紹介したいと思います。その前に、新会員もいらっしゃいますので、四つのテストについて復習しておきます。四つのテストは、1931年、シカゴロータリーのハーバート・テラーは、莫大な借金をかかえて倒産の危機に瀕していた調理器具メーカー、クラブ・アルミニウム社の経営を引き受けることになりました。失敗すれば、250名の従業員が路頭に迷うこととなります。テラーは、再建のためには従業員に行動のための合理的な指標がどうしても必要だと考えました。従業員が全員、正しい考え方を持っていて正しい行動をすれば、会社全体の信用が高まり再建へ向かうことができるというわけです。テラーが、社長室の机の前で頭をかかえながら思い浮かんだ24語の言葉が四つのテストなのです。つまり、四つのテストは、私が思っていたような倫理基準などではなく、商取引をする当事者が相互に納得できる取引を行うための極めて現実的な基準だったのです。これで私の疑問は氷解しました。なるほど、取引をする当事者がどちらも納得できれば、満足した当事者同士は、また取引をすることになるでしょう。それは安定した顧客を生み、経営に資するのは間違いありません。しかし、日本語の四つのテストを読んで、このことに気がつくのは難しいのではないのでしょうか。現行の四つのテストは、東京クラブの本田親男氏の翻訳で、1954年以来日本のロータリアンが共感してきた名訳ですが、テラーの意図に忠実かについては異論もあるようです。そして、「真実かどうか」は「事実かどうか」に、「みんなに公平か」は「すべての取引先に公正か」に、「好意と友情を深めるか」は「信用を高め、取引先を増やすか」に、「みんなのためになるかどうか」は、「すべての取引先に利益をもたらすか」に訳すべきではと提案されています。もう一つ大事なことは、四つのテストは商取引の場面に適合するように作成されているので、日常生活のすべてに適合するものではないということです。ロータリーは、企業のオーナーの親睦と相互扶助によって事業を発展させるための単なる社交のクラブとして始まりました。

## 新年度会長卓話(2/2)

シェルドンは、継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図をもって事業を営むこと、そして、利益を独占するのではなく従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分することが継続的に利益を得る方法だと説きました。これは資本主義の弊害の克服方法の一つですが、同じく克服方法である修正資本主義とは異なり、主体が政府ではなく事業所と労働者であって、自発的に行われる点に特徴があります。大きな感銘を受けました。以前、ロータリーは倫理運動であると聞いたときにも感激しましたが、この考えには強く共感いたします。顧客が納得する良い製品を作り、良い商品を用意し、良いサービスを提供する、顧客は適正な対価を払い事業者に利益をもたらす、事業者は得た利益を適正に労働者と再配分する、こうして人々が共存できればこんなにすばらしいことはないと思います。私は、シェルドンのはっきりキリスト教の信仰の厚い人かと思っ苦手意識を持っていましたが、とんでもない誤解でした。シェルドンは偉大なビジネスマンの先輩だったのです。こう考えてみると、職業分類の意味、厳格な入会資格など、伝統的なロータリーのルールがよく理解できます。ロータリーは、人々の共存をもたらす経済社会の起点なのです。しかし、この考えは、厳しい資本主義が跋扈した米国では特異的かもしれませんが、日本ではそうでもないように思います。前述の文章の中では、職業奉仕を近江商人の考え方などを引いて説明することには批判的ですが、似ている部分があるとは認めておられます。似ている部分があるのは、両者が共通して他者との共存を図ろうとしているからではないでしょうか。また、そうであるからこそ、日本の事業者がロータリーに共感してきたのではないかと思います。本年度は、改めて職業奉仕を勉強する機会を設けたいと思っております。なお、ここまでのお話は田中パストガバナーの論考に従っておりますが、あくまでも私の私見ですので、是非、「ロータリーの源流」を開いて、原本にあたってみたいと思います。

さて、今の私の頭の中では、ロータリーは職業奉仕そのものですが、社会奉仕を看過するわけにはいきません。よって、もう一つの重点項目は、社会奉仕活動です。ロータリー財団のプログラムにみられるように、やはりロータリーの活動の柱の一つは、社会奉仕活動にあると思います。2012-13年度においては、下田直前会長の下、小学生の陸上競技に光をあてて立派な支援活動をされました。2013-14年度には、さらに広範囲で強力な支援、ロータリアン以外の人たちにもロータリーの存在感を示すことができるようなプログラムを模索しています。本当に小さな夢ですが、晴天のビッグアーチで子供たちと会員のみなさんが陸上競技に親しむことができればいいなと思っています。

もちろん、何をすることも会員の親睦が必須であることには疑いがありません。8月には、ご家族も含めてカーブの応援に行くことが企画されていますし、夜間例会も予定されています。親睦委員会には、会員が相互に楽しく触れ合える機会を、なるべく沢山設けていただければと思います。なお、委員会を開催しやすくするために会議費を集中して予算化しました。是非、活用していただいて活発な委員会活動をお願いしたいと思います。

ロータリーには、いろいろな面、見方、考え方があろうと思います。余り、これが正しくてこれは間違いとか、こうなさい・ああなさいとかいうことは、いかなものかと思つた。寛容の精神が大事なのではないでしょうか。また、クラブには、それぞれのよって立つ地域があります。地域は、もちろん場所によって特色が異なるわけで、一律には決められないでしょう。我がクラブに適合した活動を模索して、我がクラブの永遠のテーマ「心ゆたかな ロータリアン」の実現につなげていきたいと思つた。

力不足ではございますが、このテーマを大きな基礎として、執行部一同、一年間頑張っていきたいと思つた。会員のみなさまには、ご協力・ご支援の程、よろしくお願ひいたします。